

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【地域別】曙福社会館【概要】

令和3年11月27日（土）

13時30分～14時30分

曙福社会館

1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。御紹介いただきました市長の清水でございます。私から申し上げるまでもなく、昨年は新型コロナの関係で厳しい状況でした。今年につきましても若干落ち着いてきた感はありますけれども、いろいろなデータを見てみますと、幾らいいい数値が出ても、いや、明日はどうなのかな、来週はどうなるかな、来月はどうなるだろうとそんなことばかり心配している毎日です。

そんな中で、市民が健康なまちづくりをしっかりと続けていかなければならないと、思いを新たにしております。今立川の人口は18万人ちょっとです。今後人口が増えるのか減るのか、これは市政運営を大きく左右します。人口が増える傾向が見えてくれば、次の世代にバトンタッチをしていくことは幾らでもあるんですね。ところが、何をどう、どこにバトンを渡せばいいのかも分からない。これだけの人口で、はたしてまちづくりが進むのか、にぎやかで安全なまちづくりができるのかとかですね、いろいろな心配があるわけです。

私に言わせますと、何とか人口が増えて、大勢の人が集まってくる状態が続くというのであればいいなと思うときもあるんですけども、なかなかこればかりは私一人の手には負えません。市民の皆さんに様々な場面で、様々な御協力をいただき、その中でよりよい方向を見つけるためには、少しでも多く皆さん方とやり取りをする中で、市の方向性を決めていきたいと。その結果で市の経営、運営をやっていききたいというふうに思っているところでございます。

そんな思いから、今年も皆さん方のお顔を拝見する中で様々なヒントを与えていただければありがたいなと思っているところでございます。

コロナの影響から、1時間程度しかないわけでございますけれども、ぜひ建設的な御意見をちょうだいし、まちづくりに御参加をいただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

（参加者）

本日は行政の皆様、市長の清水様、御多忙の中、このような機会をいただき本当にありがとうございます。よろしくお願いいたします。

私は発達障害のある子供を2人育てています。2人とも小学校生活で不安が強くなりまして学校に行くことが怖い時期がありましたが、特別支援教室キラリですね、そちらに通うことができて、そこの先生方に支えていただき、今は2人とも元気に自分に合った学校に通うことができています。で、支えてくださった先生方と市の特別支援教室には心から感謝しております。

このように発達に凸凹があって通常のクラスで困り感を抱えている子供たちのために東

京都が6年近くかけて全部の小中学校に配置してくれたこの特別支援教室、本市ではキラリとプラスですね、それは人数が大幅な増加傾向にあると聞きました。私が持っている資料では平成31年には400人近いので、もう3年たった今では500人近いのでしょうか。とにかく増えているという話を聞いております。それだけニーズのあるお子さんが多いのではないかと思います。

ですが、来年度からは東京都のガイドラインによってこの支援教室を使える指導期間が設けられ、1年で退級を見据えた目標設定と評価が行われることになると知りました。本当に1年でも子供がクラスで楽しく過ごせるように成長できるなら本当にありがたいことなんですけれども、やはり現実はその簡単ではないことを私の子供や周りのお子さんを見て実感しています。

また、キラリやプラスでの御指導で子供たちが成長したとしてもやはり自分の通常級に戻ったときに先生方やクラスメイトがその子の特性ですね、それは困り感を理解していなかったり、また必要な支援があれば頑張れるのにその支援がもらえなかったりすると、うちの子供のように結局また学校に行くのがつらくなってしまいます。

そこで全ての先生が子供の発達支援について実践的な研修を行うこと、また、困り感のある子供を助けるための学校支援員さんをきちんと研修をした上で人数を増やすことを市に改めてお願いしたいと思います。これは第3期特別支援教育実施計画の基本施策3に明記してあることです。

今全国的に不登校の子供の増加が問題となっていますが、適切な理解と支援を受けることで学校に通えるという子供は、本当に発達の凸凹のある子供の中にはたくさんいます。また、発達に凸凹のある子供に支援員さんがつくことで担任の先生の負担が減り、それがほかのクラスメイトさんへの指導が行き届くようになりますので、これは一部の子供のための支援ではなく、全ての子供たちに対しての支援となると思います。

この問題、本当に私たち親にとっては切実で、特別支援が少しでも充実している市に転出していった親子を私も何人も知っております。私は立川市が大好きなのでここで子供をこのまま育てていきたい、それはたくさんの親の願いです。どうぞ御検討をよろしく願いいたします。

（総合政策部長）

御意見ありがとうございます。

今のお話は、立川市内の小学校、中学校、どこの学校でも特別支援教室、小学校が「キラリ」、中学校が「プラス」という名前がついていますが、発達に応じた支援が必要な児童、生徒が、一定の時間抜けた中で特別支援教室のほうで学ぶということを行っております。

御紹介があったとおり、この取組が始まって以降、ここを利用しているお子さんは増えております。その中で全ての先生がそういった特別支援に係る研修をということ、それと支援員の適切な配置をということですが、先生の研修についてはやはり特別支援教室と在席の学級との連携というのは、これは不可欠でございます。支援教室でやったことが在席の学級に戻って何をやっているのかというのは先生が理解していなければそれはうまくつながらないということになります。そういった中では全ての先生がそういった研修という形、また研修が受講できなくても何らかの機会にそういった取組を学校内で共有するということは、各学校が行っておりますし、教育委員会も特別支援教育には力を入れておりますので、改めてそのことは教育委員会のほうにも保護者の方からこういった御意

見あったということでお伝えします。

支援員の配置につきましては、私も以前教育のほうにいまして重要性は分かっておりますので、そういった御要望があったということも教育委員会のほうにはお伝え申し上げます。ただ、東京都や国などの補助がつくと、非常に配置しやすいですけれども、立川市だけの予算ということになると、かなり限りがあるということの中で、どのような配置が一番適切かということは考えなければいけないことだと考えております。

御意見ありがとうございました。

(参加者)

付け加えですみません。今学校の研修は適切に進められているといつも御意見は伺うんですけれども、ちょっと手元の資料で調べましたところ、平成31年かな、校内研修について特別支援教育についての研修は未実施というところが5、6校はあったんですね。先生方がいかに忙しいか、またコロナ禍において余計に先生方の御負担が増えていることはたしかなんですけれども、先生方一人一人が子供についての理解を深めてくださるだけで支援員さんさえ必要もないというケースを私たくさん聞いております。校内研修でしたら予算も必要かもしれないんですけれども、できることからぜひ始めていただきたいというのが私たちの願いです。よろしくお願いします。

(市長)

ありがとうございました。

(参加者)

よろしくお願いします。まず、はじめに、先ほど市長がいろいろな心配をされているということで、そうなんだろうとは思いますが、1つのメッセージとしてお伝えさせていただきますと、その心配事、不安を払拭するのが市長であり政治行政の役割であると思います。だからこそこの会だと思うんですけどね。ぜひ必ず解決していくんだと強い意志を持って取り組んでいただきたいですし、市長ならそれはもう実施していただけると強く思っております。

その上で、建設的な質問をします。それは、先ほどのやりとりでも財源には限りがあると、よくある行政答弁の中にはお金には限りがある、財源には限りがあると、そういうお話があります。そこで御質問です。じゃ、立川市の予算、財源をさらに拡大させるためには市長として行政として何があるのかというものをぜひ伺いたいですね。国政であれば財政出動があります。これは地方には財政出動というのはいないですよ、恐らく。その上でどうやったら立川市の予算をさらに拡大し、お困りの方を救うのか、ぜひ教えてください。

(市長)

まちを発展させる、繁華にするということは、要するに簡単に言うと、立川に多くの方に来ていただく、立川のまちに来ていただくということで、私はそれを解決できるものだと承知をしております。ですから、立川の18万という人口が多いか少ないか、全国的に比べると多いほうの部類に入っておりますが、大勢の他市、他県の人たちが立川に来てお店で御飯を食べる、競輪で遊ぶ、美術館へ寄っていただくなど様々なかかわりかたがあると思います。例えば、新たなたましん美術館もグリーンスプリングスの一角にオープンしましたし、ファール立川のアート群を見ていただければ分かりますけれども、それらを見物するだけで本当に大勢の皆さんが立川へ来られているんです。鑑賞が終わったらまちで消費してもらう。そのために、行政や事業者が連携して日夜努力しているわけでございます。

お金がかかるということは、まさにそれが本当のことですから、それに追いつくために商業も豊かにしたいし工業も何とかしたい。このような地域経済の取組が大きな政策の柱と考えております。

(参加者)

今度新しく立3・3・30という道路が、ここの町会と東立川駐屯地の間に貫通する予定でありまして、今はどちらの道を行ってもうちの町会に入ってくれますけれども、今度はこの道が完成したときにはどういうふうにしてうちの町会に入ってくれればいいのか、ちょっとそこところがちょっと私分らないので、質問をしました。以上です。

(総合政策部長)

御質問ありがとうございました。ご御紹介の立3・3・30という道路は、今ご説明があったとおり、ここ曙福社会館の東側、今二中の前を通っている道路が28メートルの幅員となる東京都施行の都市計画道路でございます。28メートルの幅員ということで車が片側2車線、中央分離帯、それと広幅員の歩道という形状になりますので、おっしゃったとおり、南から北に来るときには左折で曙町3丁目に入れますが、逆に北から南に行く際には、どこか中央分離帯を切ったり、また信号をつけない限りは右折というのはかなり難しくなると思っています。

その点につきましては正確な情報を持っていないというのが正直なところですが、いただいたご質問は、警察のほうとの協議も必要になると思いますが、所管部署を通じて東京都のほうに伝えまして、今後地元での説明会などの際にはご説明していただくようお願いしておきます。

(参加者)

ありがとうございました。

(参加者)

ちょっと伺いたいんですけど、ここは老人が多いために私も何ていうかな、治療ですか、治療に行っているんですけど、来ている方みんな60でなくて70、80の方がいらっしゃるんです。それでここにヘルストロンですか、入っているの。せめてでも、エナジートロンっていうのを1台でもいいから入れてもらいたいなと思って今日はそれをお話しして聞いてもらおうかなと思って。

議員さんもたまに見えているんです、ヘルストロンじゃなくてそのマッサージ屋さんね。ですからもしよかったら、それを取り上げてもらって、各町会とは言わず、各福社会館とかお年寄りが集まるところに1台ずつでも入れてもらいたいなという気持ちで今伺っています。

(市長)

御意見ありがとうございます。

(総合政策部長)

ご紹介の高圧電位治療器エナジートロンですが、福社会館の所管がございまして、御参加いただいた市民の方からこういったヘルストロン以外のものを入れてもらえないかということで要望があったということ、このカタログとともにお伝えを申し上げます。ただし、商品はかなり高価なものだと思いますので、更新時期等にあわせ、今後の予算対応については検討させていただきたいと思っています。ありがとうございました。

(参加者)

お願いいたします。

(参加者)

私、もう80になるんですけど、ここからバスも出ているんですけど、荷物が多いとき、駅から帰ってきたり、電車に乗って出かけるとき、すぐバスも出ているんですけど、なかなかバスも来なかったりして、家の者に駅まで送ってもらったり迎えに来てもらうんですが、北口の駅前ですね、自家用車の停まる場所がないんですけど。立川市だけなんですよ。日野なんかだと自家用車が送り迎えできる場所、できているんですが、そういうところをちょっと立川市にも造っていただきたいです。

で、これは結構みんな思っているんですけど、自家用車が駅前に停まる場所がないんですよ。一応ちょっとその辺をお聞きしたい。

(市長)

分かりました。確かに、私も一時停車ができればと思うところはあります。

(参加者)

要するに駅前のロータリーで乗り降りができる、一応今三菱銀行のところとか伊勢丹の前で乗り降りしているんですけど、もうちょっと乗り降りができる、何ていっていいか。

(企画政策課長)

若干補足させていただきます。御承知のとおり、J R 立川駅の北口も南口も、駅前のロータリーはバスとタクシーの乗り入れが基本になっています。北口に関して言えば、バス乗り場は駅前のロータリーに収まり切れずに、北口大通りのほうまでバス停がたくさん並んでいるのは御承知だと思います。本来はあのバス停が全て駅側のロータリーに収まるのが理想なんですね。ところがこれだけ立川駅を発着するバス路線がたくさんありますので、物理的に一般車両が入る余地がない状況です。

これまでも一般車両が駅直近まで乗り入れることはできないか、といった御意見は幾つか私も記憶しているんですけども、ロータリーはバスやタクシーなどの公共交通が優先で、そこに一般車が乗り入れると逆に事故の危険性があるというところもありまして、現在一般車の乗り入れができない状況なんですね。中長期的なお話になりますが、今後、駅前を含めたまちづくりの動向などを見据えながら改めて議論をする時期が来ると思います。今日の御意見は庁内に報告していきます。ありがとうございます。

(参加者)

再びありがとうございます。そうすると先ほどの質問に続くんですけど、地方行政の財源の本質というのは他との奪い合いということなんですかね。なぜならば、立川市にたくさんの方が来て、そこで経済を回す、御飯を食べたり映画を見たりですね。そうすると立川市の財源が回るんですよ。そうするとほかの自治体は下がる、立川市が上がればほかの自治体は下がる、ほかの自治体が上がれば立川市が下がるというようなそういうある種奪い合いみたいなものが本質にあるんですかね。地方行政の財源の本質というのは。

(市長)

たまたま立川がそういう立場にあるからです。50年前でしたら市内の企業がすばらしい製造力を持っていろいろなものを造っていました。ですから工場関係や輸送関係のトラックなどがたくさん市内を行き来していました。それが今ではほとんど市外からの観光客や来街者の多くが駅を利用する、これが非常に大きいんです。

(総合政策部長)

少し補足よろしいですか。財源の話ということで、私どもは歳入という言葉で使っておりますけれど、市の歳入、入ってくるお金の大きいものはやはり税金でございます。税金も大きいところでは、市民税それと固定資産税の土地や家屋、あと市長が申し上げたのは市民税の中でも法人市民税でございます。立川市の特徴としては法人市民税がほかの市に比べて高い、その高いというのは税率が高いということではなくて、その歳入分が高いという特徴でございます。それが市長が申し上げたところで、大勢の方が立川市に來られて例えばお買物をするとか食事をするとかということになると市内の経済が活性化し、そのことによって法人市民税が間接的に上がっていくということを説明したんです。

(参加者)

例えば国立市で1,000円で御飯を食べている人が立川市で1,000円御飯を食べればその分立川市の財政は上がるんですか。

(総合政策部長)

その1,000円分がどのぐらいの効果があるかということなんですけれど、やはり多くの方が來られれば、その分、市に立地している商店なりデパートなりというのは潤うわけですので、あながちそれが間違っているとは言えないわけでございます。

(参加者)

はい、ありがとうございます。

(参加者)

再びありがとうございます。市長にぜひ子育て世代に対してのお考えをお聞きしたいと思います。先ほど市長さんのほうからやはり立川市にたくさんの人に来てほしいという言葉ありましたけれども、それは先ほどの御説明にもあったように食べにきてほしい、遊びにきてほしいって経済上のことだけではなく、きっと立川市民が増えてほしいという思い願いもありなのではないかと聞いていて思いました。

で、やはり私たち子育て世代はどこで子供を育てるか、どこで一生を過ごしていくかというのを一番考える時期です。ですので、子育て世代が立川市でぜひ子育てをしたい、ここをついの住みかにしたいと思える町に立川市になってほしいと思っております。ただ、こういう会議を見てもやはりどうしても子育て世代の方って参加率が少ないんですね。それは私子育て当事者としてもお恥ずかしいんですけれども、実際上げたい声があっても余裕がなくてこういう場所に来られない、もちろん、くるりん子育てひろばっていうのね、機会も設けていただいている感謝もしておりますが、やはりどうしてもなかなか声が上げられないという実態もあります。

で、先ほど立川市の歳出なども明細を見させていただきましたが、教育費も民生費も大変多く割合を占めていて、あ、力を入れてくださっているのだなというのはよくよく分かりますが、市長に、市長さんになかなかお会いできる機会がないので、ぜひこの機会に、市長さんにとっての子育て世代への思いとかこれからどのように力を入れていきたいと思っているかというのを聞かせいただけたら幸いです。よろしくお願いします。

(市長)

市民が立川で生活をしていただいて、そこで安心して子供を育てる、そのようなまちづくりを目指しております。

(参加者)

ありがとうございます。じゃ、具体的に、何ていうんでしょう、ほんとに全ての年代、

全ての立場の方が幸せに暮らせるように御配慮されていると思うんですけれども、今子育て世代が立川市に来てくれるよう、住所を構えてくれるようになるために、ここに力を入れていきたいなと思われていることって、市長個人のお考えでも結構です、何かございますか。

(市長)

子育て環境と学校教育ですね。特に、小中学校にしっかりしてもらいたい。当然子どもたちがしっかり食べていける生活の基盤が重要になりますがね、でもやっぱり一番は学校だと思うんです。

私には息子が3人おります。私は今76歳ですから、大体見当つくでしょうけど、息子たちは小中学生の子どもを育てる、私にとっては孫を育てる世代なんです。みんな学校でPTAの行事や集まりがあって、こんなことがあったよと、いろいろな話を聞くんですけれども、第一はお子さんを育てる親御さんにとっては、子どもたちの生活と安全ですね。子供たちが空腹にならないように、けがをしないように、この2つが子育ての原点じゃないですか。それらをきちんとサポートしていきたいなというふうに思います。

あと食の関係で申しますと、「みの一れ」という農家が直接販売しているファーマーズセンターがありますけど、その向かい側に、新たな給食センターの建設が予定されていまして、小学生と中学生全員の給食が提供されるようになります。

(参加者)

中学校もじゃあ全面給食になるんですか。

(市長)

はい、令和5年の2学期ですね。給食センターは、あたたかさを保つということ、それからメニューの多さや中身の充実度も期待しています。それで、市内のどこの小学校、中学校からも給食センターからは30分以内で到着をする。小中学生に、あと2年後ですけど、提供してまいります。

(参加者)

ぜひぜひ学校にこそ力を入れたいという市長のお考え、とてもありがたく受け止めたので、先生方もほんとに頑張っていращやるので、先生方へのサポートや充実もぜひぜひよろしくお願いします。

(参加者)

ありがとうございます。3回目でございます。では今日来るまで市長はどうなんだろうなと思っていたんですけど、相当市長頑張っているなって思いました。すみません、上から目線で。では、何が言いたいのかというと、やっぱり地方行政財政の限界が感じました。なぜならやっぱり奪い合いになっちゃっていますよね。だって港区のお金持ちが立川市に来ました。したら立川市の財源上がりますよね。そうすると港区は下がりますよね。そういう相対的な関係がそこにあるわけです。そう考えるとやっぱり国政がもっともっと財政出動してお金を出さないと駄目ですね。そうじゃないと永遠に奪い合いが止まらない。うん、というふうに思いました。質問ではなくちょっと、相当市長も大変だなと思いましたね。うん。だって奪い合いだもん。国がちょっと財政出動しないといけないなというのが私の考えです。ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございます。

3 閉会の挨拶

(市長)

改めて皆さん御協力ありがとうございました。私は孫が全部で5人おります。それぞれ40代の父親と母親が必死になって働きながら学校へ通わせている姿を見ると、子供たちをどれだけ守っていくことが大切かというのを、身をもって感じているところです。奈良のほうに転勤で行ってしまって、孫の顔を見せてくれないのが一人いるんですけどもね。

次世代の子供たちをどうやって守っていくか、これがやっぱり私、じいちゃんの立場としては一番大切だなと思いますね。家庭に帰って一番の課題は何だと言われると、孫がけがもなくきちんと健康に育ってもらうことだなんて感じています。

そんな気持ちを持ちながら、今後も立川市の市長として先頭に立って様々なものに挑戦してまいりたいと考えております。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。